

お客様第一主義を徹底し、様々な機能性を 搭載した包装フィルムを提供する スタープラスチック工業 株式会社



スタープラスチック工業株式会社

代表取締役社長：宮脇 誠人 氏
 本 社：大阪市北区菅原町 5-1
 創 業：1919年（大正 8年）
 従業員数：177名
 事業内容：合成樹脂包装フィルム製造
 URL：https://www.starplastic.co.jp



第二工場外観
 （兵庫県小野市）

食品や医薬品を消費者へ安全に提供するために包装フィルムは必要不可欠です。今回は、原料の仕入れから完成まで一貫して提供していることを背景とした豊富な知識と提案力で長年業界に貢献されてきたスタープラスチック工業株式会社を訪問しました。

同社代表取締役社長の宮脇誠人氏に、創業の経緯や製品開発に対する姿勢、人材育成に関する取り組みについてお話を伺いました。

— 前身は履物問屋 ゴム製造業を経てフィルム製造へ

スタープラスチック工業(株)の原点となるのは、私の祖父が1919(大正8)年に開業した履物問屋です。

兵庫県で公務員として土木分野の業務に従事していた祖父は、建設現場の作業員のために地下足袋を斡旋することを思いつき、公務員を辞めて起業しました。

開業の翌年にはゴム長靴を製造するメーカーへと転業して「月島ゴム製造所」と改称し、終戦後の1946年に生ゴムの調達を依頼していたアメリカの星条旗を意識して「スターラバー工業所」に社名変更しました。

その後、朝鮮戦争の特需が終息したあとの不況に対応すべく多角化を模索し、時代に先駆けてポリエチレンフィルム事業に参入することを決めました。さらに約10数年後、スターラバー工業のフィルム部門を分離独立させたのが弊社です。それから50年以上フィルム製造業を継続しています。



昔の押出ラミネート工場風景
 ラミネートとは、複数の素材を貼り合わせることを表す。高温で溶かした樹脂をフィルム状に押し出し、ほかの素材と接着剤なしで圧着する。

— 地に足を付けて 技術を磨いてきたから今がある

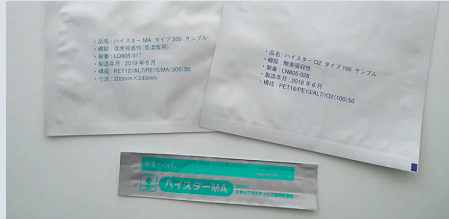
弊社の製品は主に食品関係の需要が大きく、10数年前からは医薬分野にも注力しています。

第一次オイルショックの際、製品価格の高騰によりプラスチック業界全体が非常に高い収益を記録しました。そこで得た利益を設備導入したり生産数量を増やしたりという形で投資する会社もありましたが、弊社は新商品開発や新規事業に利益をつぎ込み、新しいことにチャレンジしました。前述の通り弊社はゴム製造業からスタートしたのですが、ゴム業界は特徴のあるおもしろい製品を作ろうとする特質があり、弊社も例外ではなかったのです。

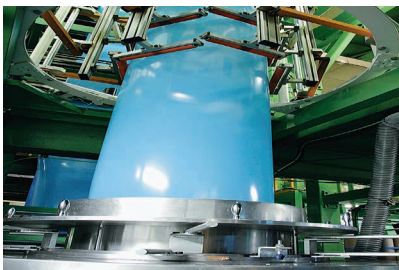
その第一歩として、ナイロンやポリエチレンの薄い膜を多層構成にして同時に製膜していく「多層共押出」という技術に着目し、長年育んできました。

医薬品の製剤安定性担保に寄与するアクティブフィルム

「アクティブフィルム」とは多層化の技術を応用して湿度や酸素を吸着する機能を搭載したフィルムで、主に医薬品、検査薬のパッケージに使用されている。医薬品の製剤開発が高分子にシフトしていくなか、よりバリア性が求められるようになってきた。製剤の安定性を担保するために、包材面からサポートするコンセプトで開発された製品が、湿度、酸素、臭気吸着機能を持つハイスターシリーズである。医薬品以外では、臭気を吸着する機能もあり、コロナ禍においては衛生用品の包装などにも使用された。今後、生命を守る医薬品分野、病原菌を検査するメディカル分野、また賞味期限延長によるフードロス削減で環境対応に寄与する食品分野で、幅広く社会貢献を果たしていく存在として期待される。



た。もともとは2層、3層から開始し、現在は5層構成にて生産しています。多層化することで強度・密着性が高まり、真空フィルムとして高い性能を保持することが可能となっています。また、ヒートシール性、耐熱性、柔軟性など多様な機能を付与することができます。この技術が今日に至るまで当社の中核の技術となっています。



インフレーション成形
押出成形の一種で、袋状フィルムの成形に特化した加工法。

— 求められるものは多種多様

お客様のニーズに徹底的に応える

お客様が求めるものは多種多様です。特に食品関係や医薬品業界では異物混入がご法度であり、弊社でも衛生環境・異物混入対策は徹底しています。そのうえで、お客様第一主義を念頭に、どういったものが必要か、どのような機能性をお求めかをヒアリングして、ニーズに合わせたご提案を複合的にさせていただきます。また、私どもの業界は化学メーカーから原料を仕入れ、フィルムを作る・印刷する・

貼り合わせる・ヒートシールを施して袋にするという複雑で多岐にわたる工程があり、それぞれを別の会社で行っていることが多いのですが、弊社では安全衛生管理も含めた全工程を一貫してさせていただいています。もちろん大変なことも多いですが、苦勞した甲斐あって数多くのお客様に評価いただいています。さらに、すべての工程を最初から最後まで一貫してやっているおかげでメーカーごとの樹脂ペレットの特性がわかります。材料の特性を理解したうえで難しいご要望にも対応できる提案力というのはどの会社にも絶対に負けない自信があります。お客様からの質問には何でも答えますので、わからないことがあれば是非お尋ねください。

— 人材育成のために考え方

価値観のベクトルを合わせる

現在弊社では社員を採用する際、新卒の方々だけではなく中途採用も行っています。どなたも弊社に入社するまでにそれぞれの環境で色々な経験をされており、多様な考え方や価値観を持っています。人材育成においては考え方や価値観のベクトルを合わせる事が最重要であると考えており、そのための教育に力を入れています。

1つ目として、弊社では仕事をした新しい物事に取り組む際の考え方を

書き記した経営理念手帳というものがあるのですが、こちらを毎日の朝礼で少しずつ読み進めるという活動を20年近く行っています。2つ目は毎月1度すべての事業所で実施する環境整備点検です。点検する日程・ルールはあらかじめ決まっており、抜き打ちは一切ないため、いかに普段から5S活動を通して環境整備を徹底し、情報共有して意識を高めるかが重要となっています。3つ目は若手社員を対象とした人材育成ミーティングです。管理職が集まって若手社員個々人がそれぞれの課題をクリアできているか、どういったチャレンジ項目を設定するかといったことを確認し、どのように育成していくかを話し合います。これによって若手社員の育成方針が明確化するのはもちろんのこと、指導者層である管理職に気づき・学びをもたらし、教育すべきことを整理できるようになることで指導者層の教育にもなります。

大切な人材を育てるチャンスをいただいているわけですから、会社にはそれぞれのポテンシャルを伸ばす責任がありますし、生半可な気持ちで教育というものはできません。これからも人材育成のための労力は惜しまず継続してやっていきたいと考えています。

— 貴重なお話をいただき、ありがとうございました。